



SAKURA

2012.2 February No. 229

CONTENTS

- 02 / 【特集】学校祭
- 04 / 看護福祉大:ピアサークル 高校:台湾淡水商工来校
- 05 / 幼稚園:クリスマス会、職場訪問 ほか
- 06 / ノースアジア大学文学賞
- 07 / シティカレッジレポート
- 08 / インフォメーション ほか



10月31日～12月23日開催「暮らしの中のあかり展」

ありがとうの輪がひろがるよう願いをこめて

逢星祭開催

10月29・30日に、秋田看護福祉大学で大学祭「逢星祭」を開催しました。

両日とも好天に恵まれ、大勢の来場者にイベントや模擬店などで楽しんでいただきました。

今年のテーマは『～すべての人々にありがとう～』で、看護学科3年の高橋瀬津さんが、「ありがとうの輪が広がりますように」という思いを込めて考えたものです。

BMI測定、アルコールパッヂテスト、介護体験、赤ちゃん抱っこ体験などの各種体験コーナーでは、学生たちが丁寧に説明をしている姿も多く見られました。今年度初めて設けられた



ストレス解消のためのリラクゼーションコーナーも、心地よい香りと雰囲気を大勢のお客様が体験。味自慢の模擬店も多く、終了時間前に売り切れになる店もありました。

今年の大学祭も、実行委員のメンバーを中心に皆が協力し合い、各施設や企業の皆様のご支援とご協力をいただいて盛況のうちに終えることができました。

来年も皆様のご来場をお待ちしております。

来場者と共に最高の思い出に

明桜祭開催

共に描く最高の思い出～」をテーマに、様々な展示やステージ発表を行いました。

学年ごとにテーマを設定しての展示や、部活動の活動紹介作品展示、総合研究コースの研究科の授業紹介や作品展示などのほか、今年度は東日本大震災後の気仙沼市でのボランティア活動の紹介なども行いました。

ステージ発表では、吹奏楽部の演奏や、チアリーディング部の演技をはじめ、ダンスパフォーマンスやカラオケ大会などで盛り上りました。

正門から玄関へ続く道にはクラスごとの模擬店が出店し、賑わいを見せしていました。



明桜高校では、10月21日・22日の2日間に渡り、明桜祭を開催しました。

22日の一般公開には、地域の方や保護者、他校の生徒など多くの来場者をお迎えしました。明桜祭に携わる生徒たちと、来場者の皆さんとが、共に最高の思い出を描けるようにとの願いが込められた、「Shining Memories ~今、



生き生きとした姿で発表

のびのび幼稚園おゆうぎ会



皆で考えて変えたりと、園児たちの工夫が生かされた発表となりました。組体操や跳び箱をかつこよく決めた場面では、保護者の皆さんから大きな拍手をいただきました。あと半年で卒園する年長さんが、園生活での成長をほうふつとさせる歌「こころのねっこ」を歌った後、幼稚園児全員で「にじ」を歌いました。

園児が描いたプログラムの挿絵も、とても生き生きとしていて劇や遊戯の様子が良くわかります。園児たちの得意なことや、おゆうぎ会に向けた頑張りなど、園児たちの成長を、おうちの人を見ていただく良い機会となりました。



11月12日、のびのび幼稚園・保育園でおゆうぎ会を開きました。

前半は保育園の園児たちの発表です。幼稚園の年長さんの司会進行で、みんな元気に体を動かしたり歌ったりしました。0歳児のこころ組のみんなも、泣かないでしっかりとステージにあがることができました。「だるまさん」では、先生がだるまさんの絵を掲げて問い合わせをし、それに答えながら保育園の園児みんなで一緒に歌いました。

後半は幼稚園の園児による発表です。ダンスでは、自分たちで考えた振り付けを先生に提案したり、劇のセリフを

練習の成果を発揮

さくら幼稚園園祭

11月12日に、さくら幼稚園で園祭が行われました。

遊戯室で行われたステージ発表で、3歳児のひばり組は男女に分かれてお遊戯姿を披露しました。合間に入る決めポーズは園児たちが考えたオリジナルで、元気いっぱい体を動かしました。

4歳児のはと組は、始まりの挨拶と「おおきなかぶ」を担当しました。おじいさんやおばあさん、動物たちやカブなど、全員が役になりきって上手に演じていました。

5歳児のつばめ組は、オペレッタのももたろうとおわりのあいさつを発表しました。劇中ではキジがサッカーボールを上手に操つたり、鬼が英語で自己紹介をするなど、幼稚園で行っているサッカー教室や英語教室で学んだことを織り交ぜていました。



最後は園児全員による歌の発表で、園児から選ばれた指揮者の動きと先生の伴奏に合わせ、元気よく大きな声で合唱しました。

ステージ発表のほかにも、園児たちが描いた絵や、想像をふくらませて作った造形が廊下や教室前にたくさん展示されており、自分の子供の作品を見た保護者は顔をほころばせていました。

すべての日程を終え、家族に自分の作品の紹介をする園児や、発表会の感想を話しながら帰宅する家族の笑顔が見られました。

(学生報道部 2年 相原真理)

自分を大切にすることを中高生に伝える -ピアルーム開催- 秋田看護福祉大学



12月5日、秋田拠点センターアルヴェを会場に、秋田看護福祉大学「B愛STAR ピアサークル」のピアカウンセラーの学生8人が、ピアルームを開催しました。

ピアとは仲間のこと、ピアカウンセラーは同世代の悩みなどを聞き、正しい知識を広める活動を行います。サークルのメンバーは、ピアカウンセラー養成者である看護学科岩間薫教授から指導を受け、セミナーで学んだ知識を生かしながら活動しています。今年度は、高校への出前講座やピアルームで、妊娠や避妊、エイズなどの性感染症、デートDVなどについて同じ目線で一緒に考え、伝えました。

5日は、ブースを訪れた中高生たちに、紙人形やパネルなどを用いてクイズ形式で会話を進めました。会場には、見やすく工夫された学生手作りのポスターなどが貼られ、明るく笑顔で

話しかける学生たちに、参加した高校生たちも自然となごみ、会話も弾みました。

今回のピアルームのリーダーを務めた看護学科2年の中藤原佑季子さんは、「今年は中学校や高校からの依頼が多く、数多くの活動を行ってきました。難しい内容が含まれているので、楽しく親しみやすい雰囲気を作るよう心掛けています。また、中高生と同じ目線で一緒に考えながら、伝えることで、自分の理解も深まり、共に学ぶことができます。ピアルームは、少人数の中高生と直接会話ができるため、相手も親近感を持って話してくれ、最後には『楽しかった』といってくれる参加者も多く、やりがいがあります」と話しました。

*デートDV(ドメスティックバイオレンス)…恋人からの暴力



淡水高級商工職業学校と姉妹校協定締結

明桜高校

12月12日、明桜学校と淡水高級商工職業学校(以下淡水商工)は、明桜高校第一体育館で姉妹校調印式を行いました。

この締結は、昨年の慶熙高校との協定に続き2校目となります。調印式に先立ち古谷元人校長が、「貴校との間で本日、協定を締結できることに感謝しております。この協定が、両校の相互の発展、日本と台湾の発展、世界に貢献できる人材の育成につながることを期待しています」と挨拶。

これを受け林恭煌(リン ガウン ファン)淡水商工高校長は、「両校は、伝統に沿って明るく良い未来へ向かっています。この交流を通してお互いに理解し、学習することが大切です。これからもっと深く交流できるように期待しています」と述べました。



淡水商工とは、2007年からお互いの高校を訪問し、交流を重ねてきました。今後は短期留学を行うなどさらに交流を深めようと協定を締結。1月からは明桜高校が淡水商工からの短期留学生を受け入れ、4月には明桜高校からも淡水商工へ短期留学を行う予定です。

調印式に続いて体験授業を行い、12日は調理実習で豚汁を調理、13日は折り紙や書道、ソーラン節など、日本の文化を学ぶ特別授業を受けました。生徒たちは互いに身振りなどを交えた英語で会話し、すぐに打ち解けて互いに交流を楽しんでいました。



サンタさんからプレゼントを もらったよ



のびのび幼稚園

12月20日、のびのび幼稚園・保育園でクリスマス会をひらきました。お遊戯室には、園児手作りのオーナメントで飾り付けられたクリスマスツリーが2本立っていて、園児たちと一緒にサンタさんをお出迎えします。ノースアジア大学の学生がサンタクロースに扮して登場すると、園児たちから大きな歓声が。先生からの「サンタさんに質問したい人！」の呼びかけに、たくさんの手があがり、サンタさんの年齢や、プレゼントは魔法で出すことを聞いて、驚きの声が上がっていました。続いて、園に来てくれたサンタさんにお礼の気持ちを込めて、組別にお遊戯を披露しました。年長組さんは鈴を鳴らしながらしっかりとポーズを決めることができました。お遊戯の後は、サンタさんから園児一人ひとりにプレゼントが手渡され、園児たちもお礼を言って受け取りました。サンタさんが帰る時には、園児たちがサンタさんを取り囲み、「ありがとう。また来てね」と声を掛けていました。



さくら幼稚園



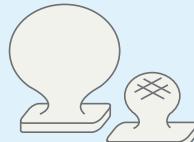
いつもお仕事ありがとう

勤労感謝の日に先立って、11月21日にさくら幼稚園の園児たちがノースアジア大学の事務局を訪れました。園児たちは声を揃えて日頃の仕事に対する感謝の気持ちを述べたあと、一人ひとり職員に手作りのメダルをプレゼントし、職員らは笑顔でありがとうございました。

みんなでついたお餅はおいしいね

12月7日にもちつき会をひらきました。

年長のつばめ組の園児たちが交代で、臼と杵を使っておもちをつきましたよ。年中のはと組さん、年少のひばり組さんは、掛け声をかけて応援しました。みんなでついたおもちは、栄養士さんと先生が、あんこときなこをつけてくれました。お昼は園児みんなでいっしょにお遊戯室でおもちを食べました。みんなでついたおもちはとてもおいしくて、おかわりをする園児が大勢いました。



第4回ノースアジア大学文学賞 授賞式・記念コンサートを開催

11月3日、古田記念講堂で、第4回ノースアジア大学文学賞授賞式・記念コンサートを行いました。

今回の文学賞には、334編の応募作品が寄せられました。その中から、高校生の部門エッセイの部最優秀賞に東京都の城谷匠さんが、大学生・一般の部門エッセイの部最優秀賞に大阪府の早瀬巖さんが選ばされました。

授賞式では、文学賞選考委員で本学客員教授の、脚本家内館牧子氏とノンフィクション作家の石川好氏から講評をいただきました。内館氏は、「高校生の部門短編小説の部に最優秀賞も優秀賞も出なかつたのは大変残念。奨励賞などを受賞した方の作品にはみな光るものがあるが、小説として紡いでいくには、その光るものをポイントだけに收めずに線、面、立体にしていかなければならない」と講評。石川氏は、「一般の方の応募が増えており、この文学賞がひろがってきていることを感じる。このような文学賞には常連の人がいて、その人の作品が昨年とどう違うのか見比べるのも楽しみの一つ。来年も良い作品に出会えることを期待している」と述べました。

授賞式に続く記念コンサートでは、第一部でテノール歌手小林彰英氏とピアニストの腰塚賢二氏による声楽ステージを、第二部では、ノースアジア吹奏楽団・明桜高等学校吹奏楽部による吹奏楽ステージを行いました。

授賞式終了後、城谷さんは「受賞の連絡を受けて、喜びよりも驚きがありました。以前から小説は何編か書いていましたが、内館先生、石川先生からいただいた評価と今回の受賞で作品に自信を持

つことができました。次回は、小説部門で応募したいと考えています」と話してくれました。



【高校生の部門】

エッセイ(自由作品)の部

最優秀賞

折りたたみ傘	城谷 匠	東京都
優秀賞		
父が作る野菜	木暮紗英子	秋田県秋田市
父との約束	二木 菜月	秋田県秋田市
自転車感覚	荒澤 涼輔	秋田県秋田市
内館牧子特別賞		
ばあちゃん	重 好和	秋田県秋田市
石川好特別賞		
空を見上げて	莊司 倫子	秋田県秋田市
短編小説の部		
佳作		
全力乙女	高橋 万葉	秋田県横手市

※高校の所在地を記載しています。

【大学生・一般の部門】

エッセイ(自由作品)の部

最優秀賞

瓦礫の中に咲いた母子愛	早瀬 巖	大阪府
優秀賞		
楊梅(やまもも)	吉村 洋一	宮崎県日南市
無職	新屋敷 元	秋田県秋田市
わが愛しのオタさん	寺山百合子	秋田県秋田市
内館牧子特別賞		
終の覚悟を	佐藤ヤエ子	秋田県秋田市
石川 好特別賞		
ルーツを求める二人	解語 玄	愛知県名古屋市

※高校生の部門短編小説の部は、最優秀賞・優秀賞の該当作品、および学校賞は該当なし。



経済の楽しさを伝える — シティカレッジセミナー —

11月5日、シティカレッジセミナー「君にもできる、スキルを知れば！」を開催しました。オープンキャンパスと同時に開催で行われたこのセミナーには、一般参加者の中にも、高校生の姿が見られました。

経済学部の教員が、経済の楽しさのエッセンスを凝縮し、分かりやすく解説。はじめに、石川竹一経済学部長が、本学が行っている公務員試験の合格対策について披露しました。続いて、野口秀行教授がドラッカーのマネジメントを取り上げ、大学で経済を学ぶ意義について話しました。最後に、客員准教授の田畠貴行氏が、ファイナンシャルプランナーの仕事について、自身の経験を交えながら軽妙に説明し、会場は度々笑いに包まれました。

質疑応答では、元公務員の参加者から、公務員試験の学習法や、公務員のあり方について質問がありました。質疑応答

の時間が終わった後も、多数の参加者が残り、和やかな雰囲気の中で個別に教員に質問していました。



源氏物語をわかりやすく解説 — 内館牧子氏講演会 —



11月28日、40周年記念館で、総合研究センター主催シティカレッジ「これならわかる『源氏物語』①」を開催しました。

本学教育諮問会議委員、総合研究センター客員教授で脚本家の内館牧子氏が、源氏物語について分かりやすく解説。

はじめに、登場人物が多く人間関係が複雑で、最後まで読み通すことが難しい源氏物語の五十四帖の構成を3つに分けて、その概要を簡単に説明しました。

次に、源氏物語の作者といわれる紫式部という人物について説明。

さらに、内裏図や系図などを用いて、物語を読み進める上で知っておきたい平安貴族の生活などを解説しながら、登場人物の心理状況をかみくだいて説明しました。

内館氏の豊富な知識に裏づけされた、平安時代を現代に置き換えたユニークな例えに、会場からはたびたび笑い声が上がっていました。

日本の今後を予測 — 福岡政行氏講演会 —



12月20日、40周年記念館で、総合研究センター主催のシティカレッジ「福岡政行氏講演会」を開催しました。

今回は「野田新政権の方向性と可能性－超円高時代と日本の空洞化－」をテーマに講演。最初に、北朝鮮の今後の展望について触れ、若き日の野田総理のエピソードを混ぜながら、政権の今後について話しました。続いて世界の中で日本の主要産業が置かれている現状を解説し、日本経済の今後を予測。

また、阪神・淡路大震災と東日本大震災の政府の対応を比較して、政府の危機管理とリーダーの決断と責任について語り、ポスト野田についても触れました。



被災地支援に感謝状

12月15日、ノースアジア大学会議室で、日本赤十字社社長感謝状伝達式が行われ、本学の厚生委員会のメンバー24人が表彰されました。

ノースアジア大学の厚生委員会は、これまで秋田県青年赤十字奉仕団の一員として、積極的にボランティア活動を行ってきました。今年度は特に、3月に起こった東日本大震災の被災地支援に力を入れ、街頭募金や仕分け作業、陸前高田市での炊き出しなどに参加。その活動に対して、日本赤十字社から感謝状が贈られました。



伝達式では、日本赤十字社秋田県支部事務局長の渡部敬三氏より、活動に対する感謝の言葉と、今後も引き続きボランティア活動を行うことへの期待が述べられました。続いて、本学園の小泉健理事長・学長から、日本赤十字社への感謝の言葉と、厚生委員会の今後の活動の更なる充実を期待する挨拶がありました。

厚生委員会代表の法学部3年濱浦雅大さんは、「自分がボランティアに行くことで少しでも被災者の皆さんに元気になって欲しいと思っていました。陸前高田市での炊き出しへ、地元の方と話しをして、自分たちも元気をいたしました。今後もできる限りボランティア活動に参加して、被災者の皆さんのお役に立ちたいと思っています」と話してくれました。

また、地震が発生して間もない時期に、秋田栄養短期大学の東口みづか准教授、工藤友子講師が宮城県気仙沼市に出向き、避難所での食事の実態調査を行いました。栄養士として被災地で調査を行ったのは本学教員が最初で、この調査によりその後の食料の配給などが改善され、今後の緊急時の食料配給のマニュアルが作成されました。この活動に対して、社団法人日本栄養士会から感謝状が贈られました。

雪国民俗館で初の企画展示

雪国民俗館では、10月31日から12月23日までの平日、40周年記念館1階を会場に、第1回目の企画展示「暮らしの中のあかり展」を開催しました。

電気の無かった時代に、秋田の生活で使われてきた燭台、行燈、提灯、ランプなど、当館が収蔵するあかり具（灯火具）を中心に約40点を展示。民具の中でも明かり具は、世相と生活が密接に反映しており、先人の知恵と工夫が見られます。来場者はご年配の方が多く、昔を懐かしみながらご覧になっていたようでした。また、若い来場者は、見たことのない明かり具に興味を示していました。鎌田幸男雪国民俗館名譽館長の解説を聞き、感心したり質問したりするなど、楽しんでいた様子でした。会場の大きな窓からは中庭が見渡せ、来場者の皆様へコーヒーやお菓子を無料提供し、憩いの場となりました。



平成23年秋の叙勲で本学教員が受章 瑞宝中綬章(外交功勞)

ノースアジア大学法学部 元特命全権大使ペネズエラ国駐箚

阿曾村 邦昭 教授

ノースアジア大学 公式フェイスブックOpen

ノースアジア大学では、Facebook上に公式ページをオープンしました。

閲覧はどなたでも可能で、さらに、フェイスブックに登録されている方は交流に参加できます。

既にフェイスブックに登録されている方は、公式ページの「いいね！」ボタンを押して書き込みなどをしてくださいようお願いします。フェイスブックに登録していない方は、フェイスブックの登録画面から新規登録していただき、公式ページにご参加ください。なお、フェイスブックに登録する際は、個人情報の設定には十分ご注意ください。

法人、ノースアジア大学、総合研究センターのトップページにあるフェイスブックのバナーから公式ページに入ることができます。

ノースアジア大学 Facebook 公式ページ
<http://www.facebook.com/nau1953>

Facebook 登録画面
<http://ja-jp.facebook.com>

ご冥福をお祈りします

秋田看護福祉大学 看護福祉学部福祉学科教授

成田 猛 教授

平成23年11月16日ご逝去
(享年61歳)